



季刊 VOL. 76
発行日 令和7年5月7日
発行責任者 夢見ヶ崎動物公園
問い合わせ 044-588-4030
飼育展示数 哺乳類:20種117点
鳥類:21種65点
爬虫類:10種97点
(令和7年4月末日現在)

最近の動物公園

今年はケヤキの若葉の芽吹きが早く、早くも青々としています。ケヤキやクヌギの花が大量に落ち、園内を埋め尽くし、清掃に普段の倍の時間がかかるのもこの季節の風物詩です。

また、4/19 しいくの日(語呂合わせ)にちなんだイベントを4/20に開催しました。普段来園者が入ることのできない調理場や獣舎の見学、飼育員による動物の体の仕組みの説明や、動物飼育における様々なエピソードを聞けるトークイベントなどを行い、動物園のことや動物飼育のことを学んでもらえる良い機会になったのではないかと思います。



レッサーパンダ・ファファ



ニホンアナグマ・きなこ



ホンドタヌキ・げんまい



ヤマブキ



ヤギ・タンゴ



インドクジャク



ブラウンキツネザル・こしあん



クモザル・サマンサ

*公式 Twitter(X)始めました。

*公式 Facebook はこちらから。→



★園内工事についてお知らせ

駐輪場・ベビーカー置き場が新設されました。また、4か所に分散した臨時駐輪スペース（ホームページ、X、園内に掲示の地図参照）もご利用いただけます。トイレはパークセンター内・小動物コーナー・慰霊塔前広場にてご利用いただけます。新しい東側トイレが供用開始になりました。

★ピックアップ動物★

フンボルトペンギン 鳥綱 ペンギン目 ペンギン科

ペンギンといえば南極に生息する動物と思っている人が少ないかと思いますが、ペンギン全 18 種のうち南極に分布するのは 4 種だけで、フンボルトペンギンはその他 14 種に含まれます。

野生では南アメリカのチリからペルーにかけて、太平洋沿岸地域に生息します。生息地の環境変化等により個体数が減少し、絶滅が危惧されていますが、日本の動物園・水族館では繁殖がうまくいき、よく見られる種類のペンギンとなっています。

日本で飼育していると冬に繁殖活動が活発になり、春先に卵が孵化します。今年の春も 1 羽が孵化しました。両親は千葉市から夢見に来て 3 羽のひなを育てたベテランです。全身灰色のふわふわした羽毛で覆われたひなはまだ泳ぐことができないため、両親が食べた魚を半消化状態で口移しにて食べさせます。ひなのいる巣穴の入り口はこの両親がしっかりガードしており、姿はなかなか見られませんが日増しに鳴き声が大きくなっており、元気に成長しているのがうかがえます。早くも時々、短時間巣穴の外に出るようになり、運が良ければ姿が見られるかもしれません。



獣医の日記

この冬頃から、タヌキのげんまいがしばしばおかしな歩き方をするようになりました。また、誰も触っていないのに自分の腰や脚に向かって怒る場面もみられるようになり、検査したところ脊椎（背骨）が変形していることが分かりました。病変は脊椎に現れますが、脊椎から脚に向かう神経にも影響を与えるため、足腰の動きに異常が出たとみられます。一見若々しく毛艶もよいですが、こう見えてこの春で 10 歳。一般的な飼育下での平均寿命に到達してしまいました。実は両目とも白内障にもなっています。ダメージを受けている神経を修復する薬のほか、痛み止めも量や種類を検討しながら与え、できるだけげんまいがこれまで通りの生活を続けられるよう試行錯誤していたところ、一時落ちてしまった食欲は回復し、エサの時間に飼育担当を待ちきれずに扉の前で踏むステップも軽やかに戻ったものの、違和感から自分の足を噛んで傷つけてしまい、治療のため入院となりました。

老化は病気ではなく止められませんが、老化による体調の不具合は軽くすることができるものもあります。高齢の動物を飼育するというのは大変なこともあります。飼育・治療技術が向上した証でもあります。げんまいの様子は X などでもお知らせしていきますので、暖かく見守っていただけますと幸いです。

★動物たちの主な移動(令和7年2月1日～令和7年4月30日)★

テンジクネズミ(♂1♀1 搬入←井の頭自然文化園より、♀1 死亡)、アメリカアカリス(♂1 死亡)、オグロプレーリードッグ(♀1 搬入←羽村市動物公園より、♂1 死亡)、フンボルトペンギン(性別不明 1 繁殖)、インドクジャク(♂1 搬出→羽村市動物公園へ)